

10月13日（木）

おはようございます。

中間試験も3日目になりまして、ひとつ最後までしっかり勉強して、カンニング等不正行為もなく、頑張ってもらいたと思います。

最近私が気になっていることというか、気づいたことがあります。諸君らにも当てはまるだろうと思っていますが、それは、インプットをするときに、アウトプットを意識しているかどうかで、インプットの質が変わるということについてです。

例えば私の例でいうと、私はこうやっていつも朝礼訓話をさせていただいておりますが、訓話をしなくてはならないといつも思っているので、人のお話を聞いたり、本を読んだりするときの学び方が全然違うのです。なぜかという、そこから何かをきっちり掴んで、アウトプットしなくてはならないといつも思っているからです。

そういう意味で、諸君らが、アウトプットを意識して勉強する、つまり試験で自分の力を表現することを常々意識して勉強するのと、アウトプットを意識しないで漫然と勉強するのでは結果が大きく変わってくるのです。アウトプットを意識しないで勉強している人で、結構長い間勉強しているのに、その人のお話を聞いてみると、何を言っているのだろうと思うことがあります。その原因はアウトプットを意識せずにただ漫然と勉強しているからではないかと感じるのです。

中学3年生のプロジェクトで、最初に絵を見せる問題がありました。雨が降っていて登場人物はみな傘をさしている。男の人はプレゼントを持っていて、女の方は野菜などを入れた買い物かごを持っており傘で顔は見えない。二人が逆向きに通り過ぎようとしている間の絵の中央部分には、クリスマスセールのチラシが落ちていて、薄暗い路地のポリバケツの前に黒い犬がいて、その犬と白い傘をさした少年が目を合わせている場面の絵でした。

その問題の肝は何かというと、この絵を見ていない人に、この絵の情景を伝えなさいという問題だということです。要するに自分がこの絵の情報をインプットするときに、アウトプットを意識してよく見なくてはならないのです。絵の内容を伝えなくてはならないという意識で絵を見ますから、ただ漫然と絵を見るのとは全然違います。テストで言えば、試験の答案を意識して勉強するみたいなものですね。このようにアウトプットを意識して何かをできるかというのはとっても大事なことです。

また、清風では「自利利他」を説くわけですが、これもよく似ていて、自利は利他のための自利なのです。自分が学んだことをどう

いうふうに人のお役に立てていくかというのは、学んだことをどんなふうにアウトプットするかということであり、人のお役に立てるようにインプットするイメージが大事ということなのです。

そういう意味で諸君らは、漫然と勉強するのはでなくて、これをどういう風に人に伝えていけるかということ意識しながら、勉強していけば、同じ勉強でも定着度がまったく変わってくると思います。

今日と明日の試験でも、アウトプットを意識して勉強してみる、学んだことを人に伝える練習をしているんだと思って勉強すれば、おのずと学びの質も変わってくるのではないかと思います。しっかり勉強して、テストを最後まで走りきってください。

今朝の話はこれで終わります。

学校長